

第3章 小樽・積丹半島の観光

和田奈津美

3.1 道の駅

図 3-1 道の駅 オスコイ！かもえない

3.1.1 オスコイ！かもえない

余市町～江差町の間で日本海に面した国道 229 号沿いにある、山と海に囲まれた自然あふれる道の駅である。施設内には、神恵内で獲れた魚介類を中心に、水産加工品の販売している。特に、水槽に入った活ホタテは活きのいいのが売りで、ホタテ以外にも、時期により活ウニや活アワビの販売も行っている。1995 年 8 月 5 日に開駅した。2004 年 9 月 8 日に台風 18 号の高波の被害を受け、長らくの間閉鎖していたが、2010 年 4 月 24 日から営業を再開した。



出所：道の駅 オスコイ！かもえない HP

3.1.2 いわない

札幌市～函館市の間で国道 5 号線、町道駅前通り沿いにある、旧国鉄岩内駅の跡地につくられた岩内マリンプラザ地区が道の駅として誕生した。ヨットをイメージしたガイドセンターたら丸館を中心に、木田金次郎美術館や岩内地方文化センター、岩内町のシンボルであるカリヨンモニュメント、噴水など水・光・音をモチーフにした美しい公園などがある。中でも人気を集めるのは、1994 年に完成した木田金次郎美術館で、岩内港や岩内山など力強いタッチで描いた作品が約 100 点収録されている。また、この美術館の建物は、木田氏の息子さんが設計した。



出所：道の駅 いわない HP

岩内線は、岩内と函館本線を接続する目的で、岩内軽便線として 1912 年に全線が開業した。小沢～岩内間の 14.9km を営業し、岩内はニシン漁で栄えた日本海に面した良港で、岩内線沿線にも茅沼炭鉱や、銅を産出する国富鉱山があり、海産物や石炭、鉱石の輸送で活況を呈した。しかし、ニシン漁の衰退や炭鉱、鉱山の閉山、バスやトラックの発達と道路整備により、岩内線の輸送量は客貨とともに減少し、1968 年には赤字 83 線の 1 つとして廃止対象とされるに至った。岩内駅は同年 11 月 1 日に、国有鉄道道の駅として開業した。

1985 年 7 月 1 日の岩内線廃止とともに廃止になった。

3.2 都通り

図 3-3 都通り商店街

3.2.1 歴史と沿革

1921 年、都通商店街稲電会が発足した。組合組織が作られる以前から既に商店街としての機能は果たしていたようだが、正確な成立時期は不明である。おそらくは 1890 年代後期、稲穂地区が切り拓かれ人が集まるに連れて、露店・商店が軒を連ねていったものと思われる。



出所：小樽駅前街並み写真集【街並画像.com】

以来第二次大戦の終結に至るまで、近代日本の発展を支えた幌内炭の積出港として、樺太そして世界を相手にした国際貿易港として、また昨今では幻の魚とまで言われる鯨の一大漁場として、小樽が繁栄すると同時に商店街も隆盛を極めた。終戦を境にその広範な商圈を失い、『斜陽の街』等と言われるも小樽の中心地、市民の台所として賑わいは途絶えることはなかった。

1964 年、前年施行された商店街振興組合法を受けて都通り商店街振興組合発足した。1966 年には念願のアーケードが完成し、日々総出の雪掻きから解放される。1968 年頃アーケードを飾るシャンデリアが取り付けられる。雪の結晶を象ったようでありながら UFO の様にも見えた独特な六方型の物だったが、20 年程運用された後、現在のシャンデリアに付け替えられる。

平成になり、バブル崩壊以降市民のライフスタイルが変化すると共に、郊外型店舗、激安ショップ、大型ショッピング施設が台頭し、商店街は凋落の一途を辿るかと思われた。加盟店舗の廃業・移転なども目立ったが、それでも尚、多くの市民の応援と商店街有志による数々のイベント・施策、新たな業種の出店などにより厳しい時代を乗り越えつつある。そして 2002 年、新たな世紀を迎え、日本各地の商店街はより一層の進化・真価が問われる。都通りもまた新たな第一歩を踏み出そうとしている。

3.2.2 星の市

星の市とは、2006 年に始まった小樽都通り商店街を活性化させるためのイベントである。衰退しつつある商店街を盛り上げるために立ち上げられた。ちょっと寂しい夜の商店街に、星の明るさくらいでいいから瞬く明かりを灯したい。アーケードにかかる星空の下、ここに集う仲間たちがそれぞれの活躍の場でスターとなって輝いてほしい。そんな思いを込めて「星の市」は作られた。約 3 カ月にわたり毎週金曜日に開催される。路上ライブ、ミニ

ビアガーデン、手作りドーナツ・雑貨などの出し物がある。

3.3 小樽水族館

図 3-4 おたる水族館

おたる水族館（正式名、株式会社小樽水族館公社）は水族館本館、海獣公園、駐車場、遊園地（小樽祝津マリンランド）、付属別館（イルカスタジアム）で構成されている。水族館本館には、300m³クラスの大水槽 3 基を含む 62 水槽に魚類、爬虫類、無脊椎動物など約 250 種類 5,000 点を展示し



出所：おたる水族館 HP

ている。海獣公園には、海獣、鳥類等 13 種類約 150 点が展示され、ペンギン、アザラシ、トドなどのショーが 1 日 4 回行われている。遊園地には、大観覧車、バイキング、サイクルライダー、スカイライド、ゴーカート、モーターボード、くじら列車、スピントップ、チェーンタワー、メリーゴーランド、バッテリーカーの機種がある。イルカスタジアムには、2 種 10～15 点が飼育されていて、オタリア・イルカなどのショーは 1 日 5 回行われている。

表 3-1 おたる水族館の沿革

1958 年 7 月	道博「海の会場」として誕生
1959 年 1 月	小樽市立水族館 発足
1964 年 8 月	開館入場者 200 万人突破
1974 年 7 月	小樽水族館公社新館オープン
1975 年 5 月	新館入場者 50 万人突破
1979 年 6 月	新館入場者 250 万人突破
1995 年 5 月	公社後有料 1 千万人突破
1999 年 7 月	年 2 回の特別展示を周年化
2005 年 2 月	冬季特別営業開始(16 日間)
2005 年 10 月	開館有料入館者 2 千万人突破

出所：おたる水族館 HP

3.4 積丹半島

積丹半島の約 4 分の 1 にあたる 238.2km²は積丹町に占められている。半島の海岸線に沿って走る国道 229 号は、小樽から江差を結ぶ「追分ソーランライン」と呼ばれる幹線道路

である。かつては北海道の経済的中心であった小樽を起点に、難所で名高い積丹半島を経て江差に至るその道には、ニシン漁で賑わった当時の面影が残っている。なかでも、積丹半島の歴史には数多くの伝説や逸話が伝えられており、北海道を代表する民謡「ソーラン節」は、ニシン漁で賑わった積丹町が発祥の地と言われている。

時代が進む中、大正初期よりニシンの漁獲が落ち込んでいき、漁獲量の減少とともに多くの人がこの地を去っていった。戦後になって、ニセコ・積丹・小樽国定公園の指定を受けたのをきっかけに、一躍観光地として脚光を浴びるようになった。近年、積丹半島の神威岬が北海道遺産に認定され、より多くの観光客が積丹半島を訪れるようになった。

図 3-5 黄金岬の見どころ

3.4.1 黄金岬

3.4.1.1 美国港

町内に7カ所ある漁港のひとつである。ここから、ホッケやイカ、アワビ、ウニなどの日本海の海の幸が陸揚げされる。釣り好きにも人気のある場所で、ゴールデンウィークの頃から岸壁は、竿を持った人でびっしりと埋まる。

3.4.1.2 黄金岬

美国港の先から海へ突き出した黄金岬へ遊歩道（410m）が整備され、3カ所の入り口から展望台を目指すことができる。展望台からは、青く澄んだ日本海と断崖絶壁が続く海岸線、さらに美国の街並みも見渡せる。美国エリアでは見逃せないスポットである。



出所：北海道積丹観光 Web Site

3.4.1.3 宝島

黄金岬の先にある美国のシンボル・宝島は、かつて大きな富をもたらしたニシンの大群が押し寄せたことから、その名がついたといわれている。近くに浮かぶ小さな島は、ゴメとも呼ばれるカモメが羽を休めている姿に似ているため、ゴメ島と名付けられている。

3.4.1.4 美国神社

1726年、小泊村(現・美国小泊)に創建され、1914年に現在地に移転した。鳥居をくぐると、細やかな木彫を施した神殿が、長い年月にわたって海のマチを見守り続けてきた歴史

を感じさせる。

3.4.1.5 積丹岳

積丹半島で唯一、登山道が整備され、さまざまな高山植物が楽しめる。道のりは 8km・約 3 時間 50 分である。国道 229 号線沿いにある登山口への案内板に従って進むと、高原地帯から次第に森の中に入って登りがきつくなる。900m 付近まで行くと眺望が開け、登りも緩やかになる。

3.4.1.6 水中展望船・ニューしゃこたん号

船上から望む数々の奇岩やロマンあふれる伝説に彩られたダイナミックな海岸線、船底のガラス越しには北海道唯一の海中公園を泳ぐ魚やウニが手に取るように見える。

3.4.2 積丹岬

3.4.2.1 漁港

幌武意、入舸、日司、野塚の 4 つの漁港があり、天然の良港としては古くはニシン漁の時代から賑わってきた。当然、釣り人の間では人気の高いスポットで、ダイビングに訪れる人たちもいる。

3.4.2.2 幌武意海岸

透明度が高く「日本の渚百選」にも選ばれた神秘的な美しさをたたえた海岸。海からは岩盤がのぞき、ビョウブ岩のある入り江に波が寄せるさまをいつまでも見ていたくなる。初夏には断崖が、積丹の町花・エゾカンゾウで彩られる。



出所：北海道積丹観光 Web Site

3.4.2.3 島武意海岸トンネル

2 人が並んで歩けるぐらいの幅のこのトンネルは、島武意海岸を望むおすすめのビューポイントへの入り口である。暗いトンネルを抜けると、明るいシャコタンブルーの海が目に飛び込んできて、絶景が一気に広がる。

3.4.2.4 岬の湯しゃこたん

2002 年 1 月にオープンした日本海の雄大な眺めとたっぷりのお湯が自慢の温泉である。右に積丹岬、左に神威岬を一望できる絶好のロケーションは、露天風呂はもちろん、大き

な窓の内風呂からも存分に楽しめる。特に海と空が茜色に照らされていく夕暮れ時は、こ
こならではの感動ものの美しさである。体と心のコリをきっとほぐしてくれる。

3.4.3 神威岬

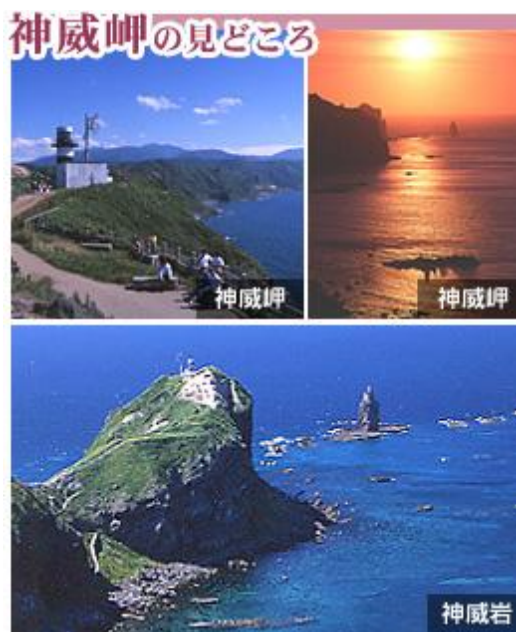
3.4.3.1 漁港

余別(余別地区・来岸地区)と神岬の漁港があり、港ごとに船の大きさや防波堤の造りなどが異なっていて、車を止めて立ち寄ってみると思わぬ発見があるかもしれない。好漁場として古くから知られ、ニシン漁全盛期の名残りの袋澗が見える場所もある。

3.4.3.2 神威岬

大海原へとダイナミックにせり出した神威岬の先端までは、駐車場から約 770m である。両側に日本海の雄大な眺めが広がる遊歩道「チャレンカの小道」をたどっていくと、20 分ほどで周囲 300 度の丸みを帯びた水平線を見ることができる。ここも初夏のエゾカンゾウが見事である。

図 3-7 神威岬の見どころ



3.4.3.3 神威岩

岬の先端から眼下に見る神威岩は、澄み切った海中に立ち尽くす乙女の化身とも言われている。遊歩道の途中から右手に見える水無の立岩などとともに、神威岬の景観をより印象的にするスパイスの役割も果たしている。

参考 HP

- ・道の駅 オスコイ！かもえない

<http://www.n43.net/michinoeki/douou/kamoenai.htm>

- ・神恵内村の道の駅～オスコイ！かもえない

<http://www.hokkaido-michinoeki.jp/data/35/each.htm>

- ・道の駅 いわない

<http://www.n43.net/michinoeki/douou/iwanai.htm>

- ・ 岩内町の道の駅～いわない

<http://www.hokkaido-michinoeki.jp/data/14/each.htm>

- ・ 国土交通省 北海道開発局 小樽開発建設部

<http://www.ot.hkd.mlit.go.jp/index.html>

- ・ 小樽都通りウェブガイド

<http://centraltown.fc2web.com/frame.html>

- ・ 小樽都通り商店街ホームページ

<http://miyakost.blog102.fc2.com/>

- ・ 小樽駅前街並み写真集【街並画像.com】

http://www.machi-ga.com/01_hokkaido/otaru-otarust.html

- ・ 星の市 HP

<http://www.milmil.cc/user/100star/>

- ・ 星の市 2011～100 おたる

<http://100otaru.com/star>

- ・ おたる水族館ホームページ

<http://otaru-aq.jp/>

- ・ 北海道積丹観光 Web Site

<http://www.kanko-shakotan.jp/>

- ・ しゃこたん半島観光振興会 HP

<http://www.shakotanhanto.net/>

- ・ ウィキペディア

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%8A%E3%81%9F%E3%82%8B%E6%B0%B4%E6%97%8F%E9%A4%A8>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B2%A9%E5%86%85%E7%B7%9A>